

「衣替え」のない学校になります

5月も半ばを過ぎると、初夏を思わせる青空や日差し、気温となる日も珍しくありません。例年ですと、間もなく「衣替え」の時期を迎えます。

【「衣替え」の実施方法】

冬服から夏服（あるいはその逆）への切り替えを、一定の「移行期間」を経たのち、完全実施の日を定めて服装を切り替える。

これについて、皆さんはどう思いますか？

実は、これまで慣例的に行ってきた「衣替え」について、以前から疑問を感じていました。もちろん、季節感を大切に服装の選択は意味のあることです。しかし、従来のやり方である「この日をもって全員が一斉に切り替える」という衣替えは、服装を選択する方法として本当に適切なのでしょうか。

集団生活をするに当たって、服装についての統一したルールがあることは何ら問題ありません。ただ、必要のないところまで縛るルールであってはならないと思っています。



そこで、今年度から従来の「衣替え」をやめることにしました。服装は、生徒一人一人が自分の服装を主体的かつ適切に判断して、いわゆる夏服・冬服や、長袖・半袖等の選択をすればいいのですから。判断する際の視点として、その日の天候や気温、自身の体調などが考えられますが、他にも季節感や他者に与える影響なども視点となるかもしれません。

服装は、「日」や「人」によって決められるものではなく、「自分」が決めるものです。その際に問われるのは、服装を選択した理由です。その服装が本当に「適切である」のかどうか、選択した自分の判断が問われるのです。

生徒自身の「考え」と「行動」で、「よいよい学校」を創る！

今回取り上げた「衣替え」の問題をはじめ、本来であれば必要のないところまで、いわゆる「きまり」「約束事」として決められていることはないでしょうか。

意味のあるきまり、必要性のあるきまりであれば、それがあっても問題ありません。逆に、なければ集団生活に支障が生じることもあり得ます。一方で、以前は必要であったとしても、時代や社会が変化し、学校や生徒の状況もそれとともに変化している現在においては、必要でなくなっているものがあるかもしれません。

「衣替え」については学校（教職員）によって見直しを行いました。今後はこのような動きが全校生徒から出てくることを期待しています。「慣例」や「一律」といった考え方に縛られる必要はありません。

よいよい学校を創る主体者は「全校生徒」です！

生徒自身が見直すべき問題に気付くとともに、気付きをそのままにせず改善のためのアクションを起こすこと。これは、よりよい学校を生徒の手で創ることそのものです。今あるものをそのまま「よし」とせず、自分たちの考えと行動で、変えるべきところはどんどん変えていきましょう。そして、その意識や取組があることで、変えてはいけないこと、大切に守っていかねばならないことも見えてくるはずです。

来週には生徒総会が開かれます。生徒会スローガンにある「創意」を大切にして、よりよい学校づくりに向けた第一歩を踏み出しましょう。目指す学校づくりへの挑戦が、「開花」という成果につながるはずです。

420名の力で、勇気と気概をもって新たな学校づくりに取り組んでいくことを期待しています。

大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

令和3年5月19日

第4号



専門委員会による毎日の活動
→ 生徒の「自治」につながる！



「生徒主体の学校づくり」の推進役
～ 生徒会三役 ～ 校長室にて